

2000誌

に
せ
ん
し

「あいさつ」

青年部長
馬場正真

委員
長を中
心に委
任され
、各部
門に委
任され
、各部
門に委
任され

組んでいただいております。紙面をお借りしまして、御礼申し上げます。また、ご自身に有難うございます。できるだけ自分の知らない世界、自分と違う人と接すること、同じ部署や同じ会社の人とだけつきあっていたのでは新しい能力を磨くチャンスや幸運のネタを拾うタイミングは逃してきません。同じ場所にとどまっていますと、待つているあいだに他人に取られてしまうかもしれません。志を高く持つ人も動きます。そしてこの壁の先がどうなっているのかと背伸びをするし、手をのばす。それで届かなかったら、踏み台を持ってきて乗ってみたりします。

王陽明は「真知は即ち行をなす所なり。行なわずんばこれを知

第14号

発行(社)鹿児島県建築協会
青年部会
鹿児島市城山町2-13
TEL(099)224-5220

と謂うに足らず」と語っています。この「知行合一」の考えは、ほんとうに知るというものは、

行動を伴うものである。行動が伴わなかったら、ほんとうに知ったとは言えない、また知るためには自分から動くことが重要だと説いています。

青年部会ではインターネットを活用し、またHも作成して親会と共に運用を始め、ますますネットワークが広がっています。各会員がこのネットワークを自分の中でどのように位置づけ、使っていくのか?そこから先は個人の判断にゆだねられます。イントラ内で、事業を通して、会員との雑談の中で、役に立つものをひとつでも見出し、役をいきたいと思います。



活動状況

総務委員会

総務委員長
堀之内茂樹

今年
度一年
間総務
委員長
を務め
させて
頂きました

した。主な事業といたしましては、まず親会の来賓をお招きして四月に開催致します定時総会及び懇親会。そして年初に開催致します青年部会の交流を目的としたボウリング大会及び新年会。また、発行物に関しましては七月と三月に会員及び各公共機関等に発行いたします「2000誌」、そして八月と一月には「協会だより」。

さらに、今年度六月に初の試みとなりました「会員手帳イントラ移行」がありました。昨年度末、今後はITの波に乗せ様々な事業を行っていくと委員会を開催した事が今思い出されます。

青年部会会員及び委員会メンバー皆様の多大なるご協力により、協会内のIT化に少しでも寄与出来た事、また今年度の事業全てを無事終了出来た事をこの場をかり深く感謝申し上げます。

そして、来年度の事業ですが、今年度と同様に、四月に定時総会を開催し、来年一月に新年会を開催したいと考えております。また、発行物に関しましては、今年度郵送していただきました「2000誌」と「協会だより」を来年度は全て建築協会内のホームページに掲載したいと考えております。また、「会員手帳イントラ移行」は新入会員が入会の承認を得られた時点でリアルタイムに書き換えを行い、スピードのある広報活動に取り組みしていきたいと考えております。

最後に、十七年度も会員間の更なる交流、またスピードのある広報活動を目指して一年間頑張ってきたと考えております。今後とも、皆様のご協力の程よろしくお願い致します。



「レクリエーション・懇親会事業」

会員研修委員会



委員長 英敏
委員 牧道

新し
い会員

研修委
員会の

平成十
六年度

の事業

も、理事の方々、委員の皆さんに助けられ、何とか一年が過ぎようとしていきます。また、会員の皆様には、各事業にご参加いただきありがとうございます。

会員研修委員会では、七月に現場見学会、技術講習会を開催し、鹿兒島南警察署新築工事現場にて坂本、丸和、三和建設J.Vの鎌田所長さん始め三名のご案内で現場概要とPC梁の技術をビデオで説明いただいた後、PCケーブルの配置、定着部、スラブ補強等の施工状況を見学致しました。

また、経営者講習会では、「地元PFI事業にみる今後の取り組み方」と題して、事前に委員会での勉強会を開き、またインターネットでの質問事項をまとめて送り、十一月に親会との共催で、かごしま県民交流センターにて約百名の参加を得、(財)都市経済研究所の永松部長よりPFI事業の概要説明の後、指宿市総務企画課の下吉保長、㈱サニーケープの山小田社長、



「経営者講習会(PFI講習)事業」

新と技術コンサルタント㈱の川崎課長の三名の方に指宿地域交流施設整備事業と加治木町黒川住宅建替事業の二例を示して頂きまして、その中で、今後の展望として「物を建ててしまえばおしまい」という考えから脱却して、今後は事業の立案、実施プロジェクト、資金調達、維持管理、運営収益までを勉強し、異業種との交流を図り、相互信頼のもと情報を提供し合う枠組を作り、事業を待つのではなく、自分たちから提案して行かなければならない」と言うアドバイスも受け、大変勉強になる講演会でした。

いずれの事業も委員会メンバーの協力の元、無事に終えることができ大変うれしく思います。

平成十七年度も会員の役に立つような事業を進めて行きたいと思っておりますので、多くの方のご参加よろしくお願ひします。

活動委員会



活動委員長 啓一郎
委員 益田

今年
度最初
の事業
の普通
救命講
習は八
月四日

(水)鹿兒島県防災研修センターで開催し、参加者は青年部十七名、一般五名の計二十二名でした。

防災研修センターを利用しての普通救命講習は初めてでしたが、自然災害が多発した二〇〇四年のことを考えた時、タイムリーな講習会場でした。この講習会を通じて、これからも現場での事故への対処と同時に、自然災害時に地域社会でリーダー的な存在となるように防災時の知識を習得できると考えています。

また、次の事業の高齢者世帯等奉仕作業は定例日である十一月二十三日(水)勤労感謝の日鹿兒島、鹿屋、南薩、奄美の四地域で作業を行い、参加者は青年部四十五名、一般二十二名の計六十七名でした。

各地区の作業ヶ所数は鹿兒島地区住宅八ヶ所、鹿屋住宅三ヶ所、南薩住宅一ヶ所、児童館二ヶ所、奄美住宅一ヶ所、作業内容はタキロン張替え、瓦補修、草刈、塗



「高齢者世帯等奉仕作業事業」

装等でした。

高齢者世帯の方々に感謝されながら事故も無く作業を終了し、青年部会員の参加意識も高く、改めて全体事業としての意義深さを感じました。

来年度においては高校生を対象とした、事業を考えてみたいと思っております。



IT委員長 義久
委員 原田

IT委員会

事業一でインターネットの定着と促進を活動目標にしてみました。

IT委員会は本年度一建築協会のIT化推進



「ITセミナー事業」

九月にITセミナーを開催して、会員のレベルアップを行いました。協会全体のセミナーだった為、親会会の方々にも関心を持って多数の方に参加していただき、とても良いセミナーになり、スキルアップできたことだと思います。次に一般の方々への情報発信として協会ホームページ開設することが出来ました。まだ試行錯誤の段階ではありますが、徐々にコンテンツや情報・連絡を増やしていけばと考えています。

来年度の活動内容としては、インターネット上での会員への情報発信やサポート、親会の方々へのインターネットの勉強会、ホームページの更新・サポート等を行い、同時に会員の方々のIT勉強会等を随時行っていく予定です。



中村 勝
上山建設㈱
鹿兒島市南林寺町



石野田 洋昭
曾山建設㈱
始良郡牟人町

新入会員紹介



平成16~17年度 社団法人鹿兒島県建築協会青年部会 組織図

※印は青年部会理事

